

第155回（令和2年 第1・第2四半期）
エイズ動向委員会 委員長コメント

【概要】

1. 今回の報告期間は、以下の約半年間
 - 令和2年第1四半期…令和元年12月30日～令和2年3月29日
(以下A、前年同時期を α とする)
 - 令和2年第2四半期…令和2年3月30日～令和2年6月29日
(以下B、前年同時期を β とする)
2. 新規HIV感染者報告数は(A)181件及び(B)166件 ((α)211件及び(β)217件)
3. 新規AIDS患者報告数は(A)60件及び(B)94件 ((α)69件及び(β)78件)
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は(A)241件及び(B)260件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが(A)134件及び(B)113件
(新規HIV感染者報告数の(A)約74%及び(B)約68%)
 - 異性間性的接触によるものが(A)19件及び(B)30件
(新規HIV感染者報告数の(A)約10%及び(B)約18%)
そのうち(A)は男性11件、女性8件 (B)は男性24件、女性6件
 - 静注薬物によるものは(A)2件、(B)1件
 - 母子感染によるものは(A)、(B)共に0件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが(A)32件及び(B)54件
(新規AIDS患者報告数の(A)約53%及び(B)約57%)
 - 異性間性的接触によるものが(A)11件及び(B)13件
(新規AIDS患者報告数の(A)約18%及び(B)約14%)
そのうち(A)は男性9件、女性2件 (B)は男性12件、女性1件
 - 静注薬物によるものは(A)2件及び(B)1件
 - 母子感染によるものは(A)、(B)共に0件
 - 年齢別では、特に30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和2年1月～6月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数は(A)20,235件及び(B)6,259件
(前年同時期確定値(α)27,244件及び(β)26,529件)
自治体を実施する保健所以外の検査件数は(A)6,987件及び(B)3,325件
(前年同時期確定値(α)9,442件及び(β)9,379件)
2. 保健所等における相談件数は(A)24,742件及び(B)11,689件
(前年同時期確定値(α)34,288件及び(β)32,498件)

【献血の概況（令和2年1月～6月）】

1. 献血件数（速報値）は、2,478,131件（前年同時期2,377,994件）
2. そのうちH I V抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は26件（前年同時期19件）
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、1.049件（前年同時期0.799件）

《まとめ》

1. 今回報告された新規H I V感染者報告数は、前年同時期に比べ、第1四半期、第2四半期共に減少した。新規A I D S患者報告数については、前年同時期に比べ、第1四半期は減少したが、第2四半期は増加した。
2. これまでと同様の傾向ではあるが、今回の新規H I V感染者は20～40代、新規A I D S患者は30～50代の報告数が多い。また、10歳代から70歳代までの新規H I V感染が報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. 保健所等におけるH I V抗体検査件数は、前年同時期に比べ、第1四半期（-26%）、第2四半期（-73%）共に大きく減少した。保健所等における相談件数についても前年同時期に比べ、第1四半期、第2四半期共に減少した。
4. エイズで発見された患者の割合は、令和2年第2四半期において、約36%であった。これについては、エイズで見つかる患者数は前年同時期の変化が小さい一方で、新規H I V感染者が減少したことが影響したものと考えられる。
新型コロナウイルス感染症の影響による検査数の変化等含め、このような状況を注視していく必要がある。
5. 献血10万件当たりのH I V陽性件数は、前年同時期より増加しているが、速報値であるため、今後の状況を注視した上で、評価する必要がある。
6. 早期発見は、個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、今後も保健所等における無料・匿名のH I V抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。

《令和元年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和元年の約1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、903件（過去20年間で、14番目の報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、333件（過去20年間で、17番目の報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は、1,236件（過去20年間で、14番目の報告数）

【感染経路・年齢等の動向（確定値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが651件（全HIV感染者報告数の約72%）
 - 異性間性的接触によるものが136件（全HIV感染者報告数の約15%）
 - 静注薬物によるものは2件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが180件（全AIDS患者報告数の約54%）
 - 異性間性的接触によるものが56件（全AIDS患者報告数の約17%）
 - 静注薬物によるものは1件
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、特に30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和元年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は142,260件（過去20年間で、5番目の件数）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は129,695件（過去20年間で、15番目の件数）

《まとめ》

1. 令和元年の新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は、平成29年より減少しており、3年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血における10万件当たりの陽性件数は昨年と比べて同数であった。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を利用いただきたい。
4. 新規報告数全体に占めるAIDS患者報告数の割合は、依然として約3割のまま推移している。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくため、重要となる。国民の皆様には、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。